

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月 1日

事業所名 放課後等デイサービス 喜び

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		必要時にパーティションも使用している。	
	2	職員の配置数は適切である	6			定員10名に対して、基準人員より増員して対応している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			手すりやスロープが設置されている。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	1		行事後等には必ず振り返りを実施し、次回に活かすようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			1回/年の評価アンケートはもちろん、モニタリング時にも、保護者に対して意向調査を実施している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		HPにて公開している。	HPに公表をした際には、お便りなどに公表をした旨とURLを記載して情報提供をしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	2		今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			研修委員会を中心に、外部研修への参加、1回/月で内部研修の実施。以前よりも定期的に研修に参加する機会が増えた。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			最低1回/6ヶ月はモニタリングを実施し、その際に再アセスメントも行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			共通のアセスメントシートを活用。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1		行事計画書の全職員への回覧実施。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			季節に応じた行事、創作活動、食育活動を実施している。毎月全職員で話し合っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2		スケジュールを壁に掲示し分かりやすくしている。朝の会などで今日の予定を伝えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			音楽や運動、畑など新たな活動も計画の中に位置付けている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			朝礼で活動や送迎なども確認している。日誌などを通して、参加出来ない職員への伝達もできるようにしている。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			ミーティングにて一日の様子を共有できている。	送迎等で遅くなりミーティングが全員で出来なかった際には、翌日の朝礼で振り返りを確実に行っていく。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		記録方法に関して、意思決定支援の定着に向け、選好を取り入れて練習をしている。	記録の記載方法に関して要点をまとめたレジュメの作成。客観的な視点での記載を行う。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			コロナ流行の時期などは紙面や電話など面談以外の方法でも対応していた。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4	2			放課後等デイサービスガイドラインの回覧及び理解を深めるための研修の実施。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			児童発達支援管理責任者若しくは担当職員が参加している。		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			学校から毎月のお便りをいただき、学校の行事なども把握できている。送迎時に学校の先生などと話をし情報交換を行って		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			6			該当者がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3			新一年生などは、保育所に訪問して情報交換など実施している。	移行支援についての知識があまりない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			5	1		卒業生がおられず、実施していないが、今後該当者がおられた際には必要な情報提供を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			1	児童相談所や医療機関などとも連携している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			2	4		今年度計画にあったがコロナ等でできなかった。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	4		1	協議会主催の研修などにも積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			2	主に送迎時や玄関対応時にその日の様子などを伝え、信頼関係の構築に努めている。	ペアレントトレーニングの研修に参加し、保護者への報告や関係性の構築方法を学び、伝達研修を行うことで支援の質の向上を目指していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3			3	ペアレントトレーニング研修の実施。実践ガイドブックの回覧の実施。	28に記載。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			1	契約時に説明を実施。行事費などはお便りに詳細に記載。	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		送迎時等に保護者と会話する時間をもち、相談しやすい環境を作っている。保護者からの相談は職員全員で共有している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	5		希望しない人が多い
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		相談支援専門員への経過報告なども実施。発生時にはすぐに書面にまとめ。全体周知・保護者とのやり取りが出来る。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1		毎月お便りの配布。コロナ対応など、適宜お願い文を配布。	
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1		意思決定支援について、研修で学び伝達実施。	障害特性についての研修を実施していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	2	避難訓練など地域の方の参加もお願いはしている。	コロナウイルスが落ち着いたら計画していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		4	2		現在、各委員会でマニュアルの可視化への対応中。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2		避難誘導訓練の実施。消防署参加型。適宜安全管理委員会の実施。	防災週間に合わせて、事業所内での訓練や児童に対して防災教育などを実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			県の研修などへ参加して伝達研修の実施。個人面談にてメンタルヘルスの実施。ニュースで報道された内容なども周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	1		該当者がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3		医師の指示書ではなく、アセスメント時に聞き取りをして実施。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			ヒヤリハットポストの設置。1回/月で会議の実施。	